

知財インテリジェンスにおけるAIエージェントの 覇権争い: Patsnap EurekaとTokkyo.Aiの徹 底比較と将来展望に関する包括的分析レポー ト

Gemini 3 pro

1. 序論: 知財実務における「第4の革命」とAIエージェントの台 頭

1.1. 知的財産(IP)インテリジェンスの変遷と現在地

2026年初頭、知的財産(IP)および研究開発(R&D)支援ツールの市場は、過去数十年の歴史の中で最も劇的かつ根本的な変革の只中にある。我々はいま、従来の「検索(Search)」と「分析(Aalytics)」の時代を超え、「自律的な意思決定支援(Agentic Decision Support)」の時代へと足を踏み入れている。

歴史的に、特許調査ツールは「情報の網羅性」と「検索速度」を競うデータベース産業として発展してきた。1990年代の電子化による「第1の革命」、2000年代のグローバルデータベースの統合による「第2の革命」、そして2010年代の統計解析・パテントマップの普及による「第3の革命」を経て、知財情報は「探すもの」から「可視化するもの」へと進化した。しかし、これらの進化はいずれも、最終的な情報の選別と文脈の解釈を人間の専門家に委ねていた点で共通している。

2023年の生成AI(Generative AI)の爆発的普及を契機に始まった「第4の革命」は、この前提を覆そうとしている。大規模言語モデル(LLM)の登場により、AIは単なるキーワードのマッチングではなく、技術文書の「意味(Semantics)」と「文脈(Context)」を理解し始めた。そして2025年から2026年にかけて、単に質問に答えるだけのチャットボットから、自律的にタスクを計画・実行・修正する「AIエージェント」への進化が決定的となった¹。

1.2. 本レポートの目的と分析対象

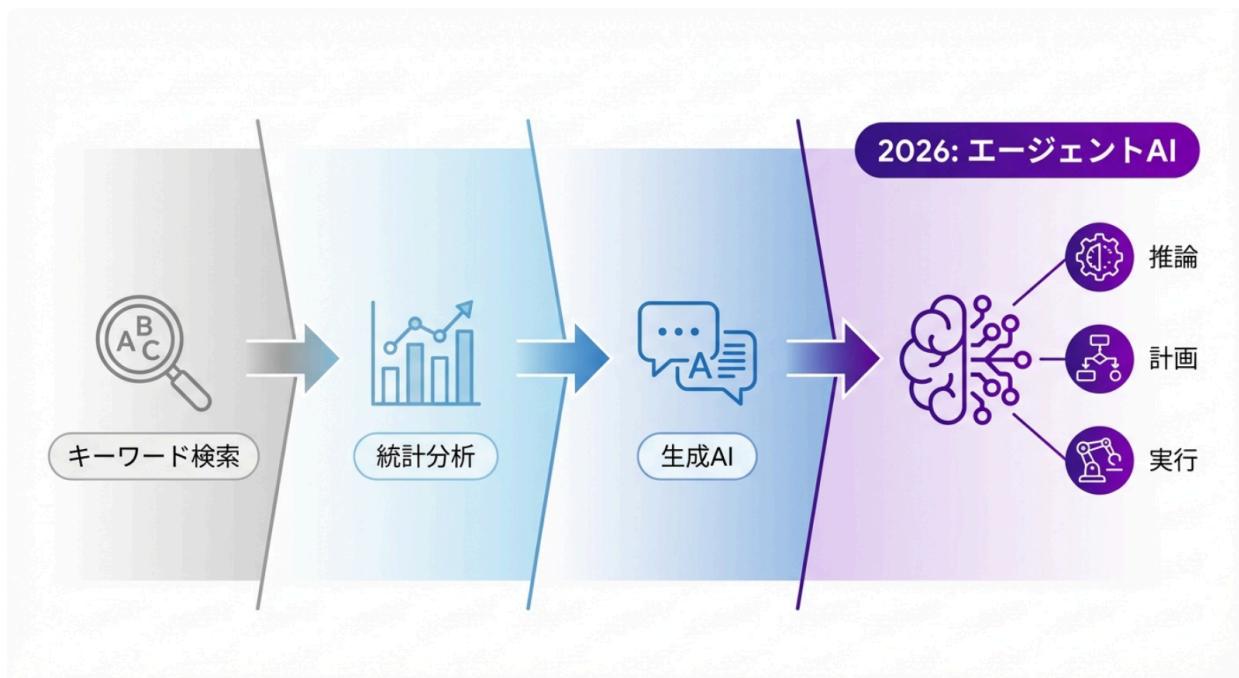
本レポートは、この「第4の革命」の最前線を走る二つの異なるアプローチ、すなわちシンガポール発のグローバルユニコーンPatsnapが提供する「Eureka」およびその定量的評価指標「PatentBench」と、日本のリーガルテック株式会社が展開する「Tokkyo.Ai」およびその「ディープエージェント方式」について、技術的アーキテクチャ、評価手法、実務への影響、そして背後にある設計思想を徹底的に比較分析することを目的とする。

Patsnapは、2026年1月に業界初となる特許実務特化型ベンチマーク「PatentBench」を発表し、AIの「精度」を数値で保証することで信頼性を確立する「定量的アプローチ」を採用した³。一方、

Tokkyo.Aiは2025年12月に「Deep Research(ディープリサーチ)」機能を実装し、複数のAIエージェントが協調して調査を行うプロセスを可視化する「ディープエージェント方式」を通じて、ユーザーの納得感を醸成する「定性的・プロセス重視アプローチ」をとっている³。

本稿では、ユーザーから提起された「Tokkyo.Aiに同様の評価(ベンチマーク)は存在するのか?」という問い合わせに答えつつ、両社の戦略的相違を「結果の精度(Outcome Accuracy)」対「プロセスの透明性(Process Transparency)」という対立軸で捉え、知財実務家が次世代ツールを選定する際の決定的な判断基準を提示する。

知財ツールの進化：検索エンジンから自律型エージェントへ



従来の手動検索から、統計分析、生成AIによる要約を経て、2026年には自律的に戦略を立案・実行する「AIエージェント」へと進化を遂げた。PatsnapとTokkyo.Aiはこの最先端に位置する。

2. Patsnap: 定量的信頼の確立と「PatentBench」による業界標準化

2.1. PatentBenchの衝撃：曖昧な「AI精度」への挑戦

2.1.1. 業界初の標準化イニシアチブ

2026年1月12日、Patsnapは知的財産実務に特化したAI評価のグローバルスタンダードとして「PatentBench」を発表した³。これまでの知財AIツール市場では、各ベンダーが自社のAIについて「高精度」「革新的」といった定性的な宣伝文句を用いることが一般的であり、客観的な比較指標が存在しなかった。ユーザーは、実際にトライアルを行い、個別の案件で試行錯誤する以外に性能を確かめる術がなかったのである。

Patsnapはこの不透明な状況を打破すべく、実際の特許審査実務に基づいた厳格かつ再現可能なベンチマークテストを設計した。これは、自然言語処理(NLP)分野における「MMLU(Massive Multitask Language Understanding)」や「GSM8K」のような標準ベンチマークの知財版を確立しようとする野心的な試みである。

2.1.2. 評価設計の厳密性と「正解」の定義

PatentBenchの設計において最も特筆すべき点は、評価対象を「新規性調査(Novelty Search)」という、特許実務の中で最も難易度が高く、かつ結果の客観性が担保しやすいタスクに絞ったことである⁴。

- テストデータセット: 主要特許庁(米国USPTO、欧州EPO、中国CNIPAなど)において審査が完了し、拒絶理由通知において「X文献(新規性を否定する単独文献)」が引用された340件の特許ファミリーを「正解データ(Ground Truth)」として採用している³。
- 多様性の確保: 評価の公平性を期すため、言語(英語68%、中国語32%)および技術分野(IPC分類)のバランスが慎重に調整されている。これにより、特定の言語圏や技術領域(例えば医薬化学のみ)に特化したモデルが不当に高く評価されることを防いでいる³。
- 比較対象モデル: 自社の特化型エージェント「Patsnap Eureka」に対し、当時の汎用LLMの最高峰である「ChatGPT-o3(OpenAI)」および「DeepSeek-R1」を比較対象として設定した³。これらはウェブ検索機能を備えた強力なモデルであり、一般的な知識タスクでは人間を凌駕する性能を持つとされる。

2.1.3. 評価指標:X検出率とXリコール率

PatentBenchでは、以下の二つの主要指標を用いてAIの性能を定量化した。

1. **X検出率(X Hit Rate):** AIが提示した上位100件の文献リストの中に、正解となるX文献が「少なくとも1件」含まれている割合。これは、AIが「当たり」を引く能力を示す指標である³。
2. **Xリコール率(X Recall Rate):** 正解となる「すべての」X文献のうち、AIが上位100件の中に何割を拾い上げられたかを示す指標。これは調査の「漏れのなさ(網羅性)」を示す指標であり、侵害予防調査(FTO)や無効資料調査においては、Hit Rate以上に重要視される³。

2.2. 検証結果の詳細分析:特化型AIの圧倒的優位性

Patsnapが公表した検証結果は、知財業界に衝撃を与えるものであった。

- **Patsnap Eurekaの圧勝:** Eurekaは、Top 100件の結果において、X検出率81%、Xリコール率**36%**を記録した³。

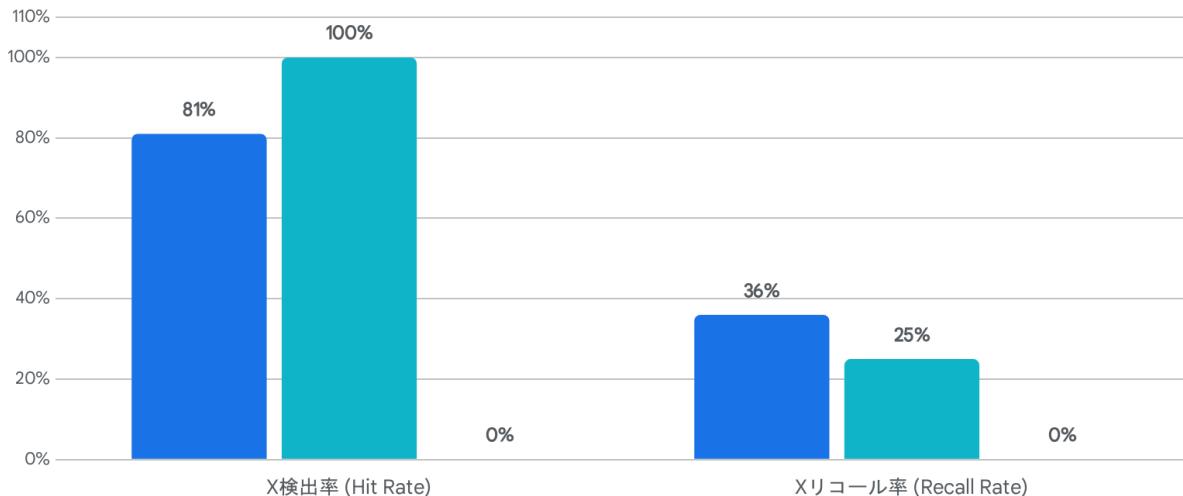
- 汎用モデルの限界: 比較対象のChatGPT-o3は、X検出率こそEurekaと同等のスコア(場合によっては100%近いHit Rate)を出したケースもあったが、**Xリコール率においては25%**にとどまった⁴。さらにDeepSeek-R1に至っては、一部のテストケースで関連文献を全く抽出できず、リコール率0%という結果も記録されている⁴。

この結果が示唆する事実は極めて重い。汎用LLMは、一般的なウェブ検索能力を通じて「それらしい文献」を1つ見つけること(高いHit Rate)は得意である。しかし、特許審査官が引用するような複数のX文献を「漏れなく」拾い上げる能力(高いRecall Rate)においては、特許分類(IPC/CPC)や引用ネットワーク(Citation Graph)を深く学習した特化型モデルに遠く及ばないのである。

実務において、「1件見つかる」と「すべて見つかる」ことの間には決定的な違いがある。特に、製品リリース前のクリアランス調査において、致命的な特許を1件でも見逃せば、それは数十億円の損害賠償リスクに直結する。PatsnapはPatentBenchを通じて、汎用AIのリスクを可視化し、自社の特化型エージェントの安全性を定量的に証明することに成功したと言える。

PatentBench評価結果 : Patsnap Eureka vs 汎用LLM

● Patsnap Eureka ● ChatGPT-o3 ● DeepSeek-R1



Patsnap Eurekaは、X検出率 (Top100)において81%を記録し、汎用LLMと比較して高い精度と網羅性を示している。特にリコール率 (網羅性)における差は、実務上の「調査漏れリスク」の低減に直結する。

Data sources: [Patsnap](#), [Asia IP](#)

2.3. Patsnap Eureka: 実働型エージェントのアーキテクチャ

Eurekaの高いスコアを支えているのは、単なるLLMの性能ではなく、Patsnapが創業以来15年以上にわたって蓄積してきた「データ」と「ワークフロー」の統合にある。

2.3.1. 圧倒的なデータ基盤とRAGの高度化

Patsnapは170以上の管轄区域から2億件以上の特許データ、さらに論文、訴訟情報、企業データなど、20億以上のデータポイントを保有している⁸。Eurekaは、この膨大かつ構造化されたデータをRAG(Retrieval-Augmented Generation)の参照元(Knowledge Base)として利用する。

一般的なRAGがテキストデータの類似度検索にとどまるのに対し、Eurekaは特許分類コード、出願人の名寄せデータ、引用・被引用関係のネットワーク構造までも検索シグナルとして利用していると考えられる。これにより、単なるキーワードマッチングでは到達できない、概念的に関連する文献の抽出が可能となる。

2.3.2. 目的別専門エージェント群

Eurekaは単一のAIではなく、「新規性調査エージェント」「FTO調査エージェント」「技術スカウトエージェント」「無効資料調査エージェント」など、目的別に特化したエージェント群(Specialized Agents)で構成されている⁸。

ユーザーが「この技術の新規性を調査して」と指示すると、新規性調査エージェントが起動し、以下のプロセスを自律的に実行する：

1. 入力された発明概要(技術メモやクレーム案)の構成要素への分解。
2. 各構成要素に対する類義語拡張と分類コードの特定。
3. 検索式の自動生成とデータベースへのクエリ実行。
4. 抽出された文献のスクリーニング(読み込み)と関連度判定。
5. X文献・Y文献候補の特定と、対比表(クレームチャート)を含む報告書の作成。

この一連のプロセスにより、従来熟練のサーチャーが1~2週間かけて行っていた調査業務が、数分から数時間レベルに短縮されるとPatsnapは主張している⁹。

2.3.3. 化学・バイオ・材料分野への深耕

特筆すべきは、Patsnapが「Eureka Materials」や「Eureka Bio」といった専門モジュールを展開している点である⁸。ここでは、化学構造式、遺伝子配列、物性データといった非テキストデータもAIの処理対象となる。LLMと構造化データ検索を融合させることで、「この化学構造に類似し、かつ融点が○○度以上の特許を探す」といった高度な複合クエリにも対応可能となっている。

3. Tokkyo.Ai: プロセスの透明化と「Deep Agent」の哲学

3.1. Tokkyo.Aiの戦略的転換と「ディープエージェント」

Patsnapが「結果の数値」で信頼を勝ち取ろうとする一方、日本のリーガルテック株式会社が展開するTokkyo.Aiは、「プロセスの可視化」によって信頼を構築する戦略をとっている。2025年12月18日、同社は「Deep Research(ディープリサーチ)」機能を実装し、「ディープエージェント方式」と呼ばれる独自のアーキテクチャを発表した³。

3.1.1. Deep Researchとは何か

「Deep Research」という用語は、本来OpenAI等の文脈では、ウェブ上の情報を深層的に探索・統合する機能を指すことが多いが、Tokkyo.Aiにおけるそれは、知財実務に特化した再定義がなされている。具体的には、単なる検索結果のリストアップではなく、調査方針の策定から検索、スクリーニング、そして分析・提案書のドラフティングまでを、AIが一気通貫で自律的に行う機能を指す⁵。

3.1.2. ブラックボックスからの脱却: Glass Box AI

従来のAI検索や汎用LLMの最大の問題点は、なぜその回答に至ったのかというプロセスがブラックボックスであることだった。AIが「これが重要特許です」と提示しても、その根拠が不明瞭であれば、知財担当者はその結果を鵜呑みにすることはできない。

Tokkyo.Aiはこの課題に対し、「AIがどのような検索式を立て、どの文献を読み、どの箇所(段落や図面)を根拠に判断したか」という思考プロセスをすべてユーザーに開示する「Glass Box(透明な箱)」アプローチを採用している⁵。ユーザーはAIの思考過程を「検証」できるため、AIが誤った前提(例えば技術用語の解釈ミス)で調査を行っていた場合、途中で介入し、軌道修正を指示することが可能である。これは、AIを「答えを出す機械」ではなく「一緒に考えるパートナー」として位置付ける思想である。

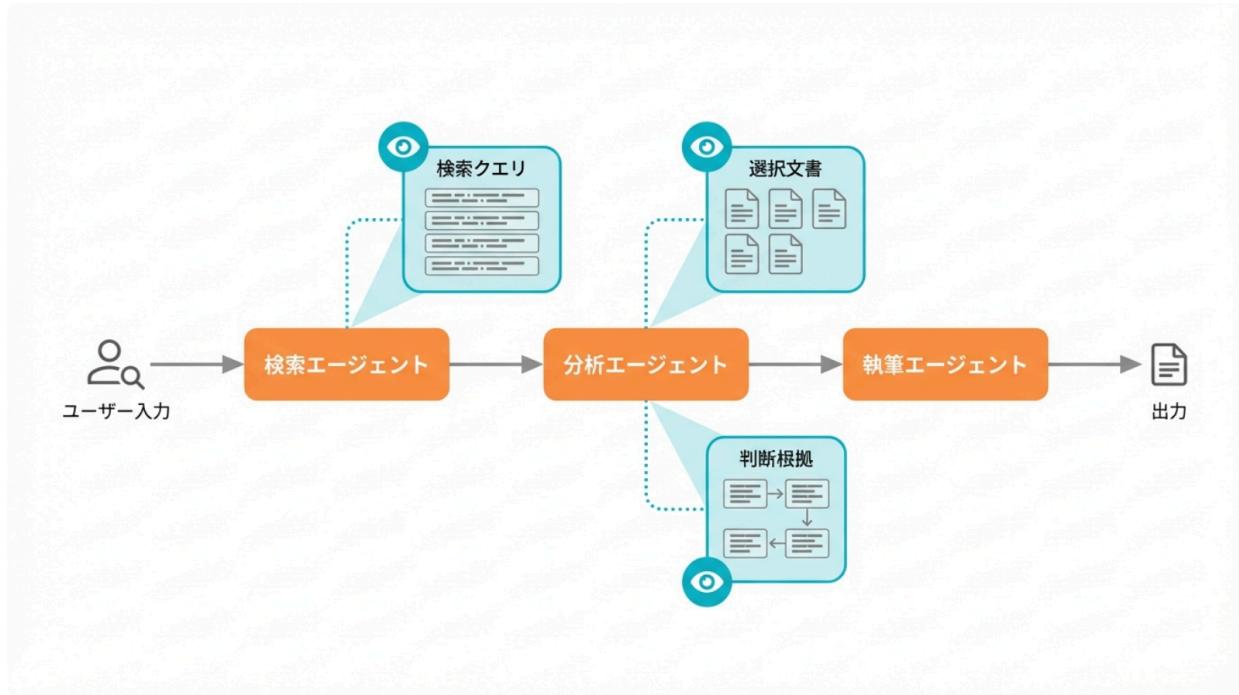
3.1.3. マルチエージェントによる協調と分業

「ディープエージェント方式」では、単一のAIモデルが全てを処理するのではなく、複数の専門AIエージェントが協調してタスクを遂行する³。

- 検索エージェント: ユーザーの入力から技術的特徴を抽出し、検索クエリを作成・実行する。
- 読解・分析エージェント: 検索された文献を読み込み、入力技術との類似点・相違点を抽出する。
- ライティングエージェント: 分析結果に基づき、発明提案書や明細書のドラフトを執筆する。

このように役割を分担することで、各エージェントのタスクが単純化され、全体の処理精度と安定性が向上する。

Tokkyo.Ai ディープエージェントの思考プロセス (Glass Box)



Tokkyo.Aiの「ディープエージェント方式」は、複数のAIが協調してタスクを実行する過程を可視化する。ユーザーは検索式や判断根拠（引用箇所）を確認でき、ブラックボックス化を防ぐ。

3.2. Tokkyo.Aiの「ベンチマーク」に関する検証結果と代替指標

ユーザーの主要な関心事である「Tokkyo.AiにはPatentBenchのような評価が存在するのか」という問い合わせに対し、本調査では以下の結論を得た。

結論：Patsnapの「PatentBench」に相当する、標準化されたX検出率等の定量的ベンチマークレポートは、現時点では公開されていない¹⁵。

しかし、Tokkyo.Aiは「数値」ではなく「実務上の効果」と「機能アップデートによる精度向上」を検証・アピールする、別のアプローチをとっていることが判明した。

3.2.1. 「ULTRA」アップデートによる精度向上（2024年4月）

Tokkyo.Aiは「ULTRA」と呼ばれる大規模アップデートにおいて、検索アルゴリズムを刷新した¹⁶。ここでは、ベンチマークスコアの代わりに、以下の機能的改善による精度向上が謳われている。

- ユーザーによる重み付け: AI任せにするのではなく、ユーザーが重要と考えるキーワードに重み付け(Weighting)を行うことで、意図通りの検索結果を誘導できる機能。これは「AIの精度」を「ユーザーとの対話」で補完するアプローチである。
- AIレコメンデーション: ユーザーの検索履歴や閲覧行動に基づき、AIが能動的に類似特許を推

薦する機能¹⁶。

3.2.2. 定量的「業務効率化」指標

Tokkyo.Aiが強調するのは、検索精度の「正解率」ではなく、業務プロセスの「短縮率」である。

- 物流ロボット企業の事例: 発明提案書の作成時間が従来の1/3に短縮¹⁸。
- 鉄道車両メーカーの事例: 調査時間が大幅に短縮され、パテントマップ作成までのリードタイムが削減された¹⁹。
- 一般指標: 発明提案書から明細書ドラフトを作成する工数を**60~90%**削減可能というデータを提示している²¹。

これらは、AIが「X文献を漏らさず見つけるか」という精度の指標ではなく、「人間が楽になるか」という効率の指標である。ここにPatsnapとの決定的な哲学の違いがある。

3.2.3. セミナー等での比較デモ

公開レポートではないが、Tokkyo.Ai(リーガルテック社)は展示会やセミナーにおいて、「人間 vs AI」の対決デモや、汎用AIが見逃した文献をTokkyo.Aiが発見した事例紹介を行っている¹⁵。これらは定性的なデモンストレーションであり、統計的な有意性を持つベンチマークとは性質が異なるが、ユーザーに対する「納得感」の醸成には寄与している。

4. Patsnap vs Tokkyo.Ai: 徹底比較と選定基準

両社のアプローチは、「精度の証明(Proof of Accuracy)」と「プロセスの納得(Trust in Process)」という異なる価値観に基づいている。以下に、主要な比較軸における詳細な分析を行う。

4.1. 評価・信頼性へのアプローチ (Evaluation & Trust Strategy)

比較項目	Patsnap (Eureka & PatentBench)	Tokkyo.Ai (Deep Agent & ULTRA)
信頼性の根拠	定量的評価 (Quantitative) PatentBenchによる「X検出率81%」等の数値的証明 ⁴ 。 外部監査的な客観性を重視。	定性的・プロセス的評価 (Qualitative) 思考プロセスの可視化による「説明可能性」とユーザーの納得感 ⁵ 。 Human-in-the-loopを重視。
対抗馬と意識	汎用LLM (ChatGPT,	従来のキーワード検索 & ブ

	DeepSeek) これらに対する「特化型」としての圧倒的性能差を強調。	ラックボックスAI 使いにくさや不透明さに対する「解決策」としての位置づけ。
強み	再現性と客観性 誰が使っても高い確率で重要文献に到達できることが保証されている。グローバル基準での安心感。	検証可能性と柔軟性 AIの挙動を人間が監視・修正できるため、AIのミスを人間がカバーできる。日本的な「すり合わせ」文化に適合。
弱点	ベンチマーク外の特殊なケースや、AIの思考過程が見えにくいことによる「ブラックボックス」への根源的不安感。	数値的な保証がないため、導入時のROI試算(リスク低減の観点)がPatsnapほど明確に説明しにくい。

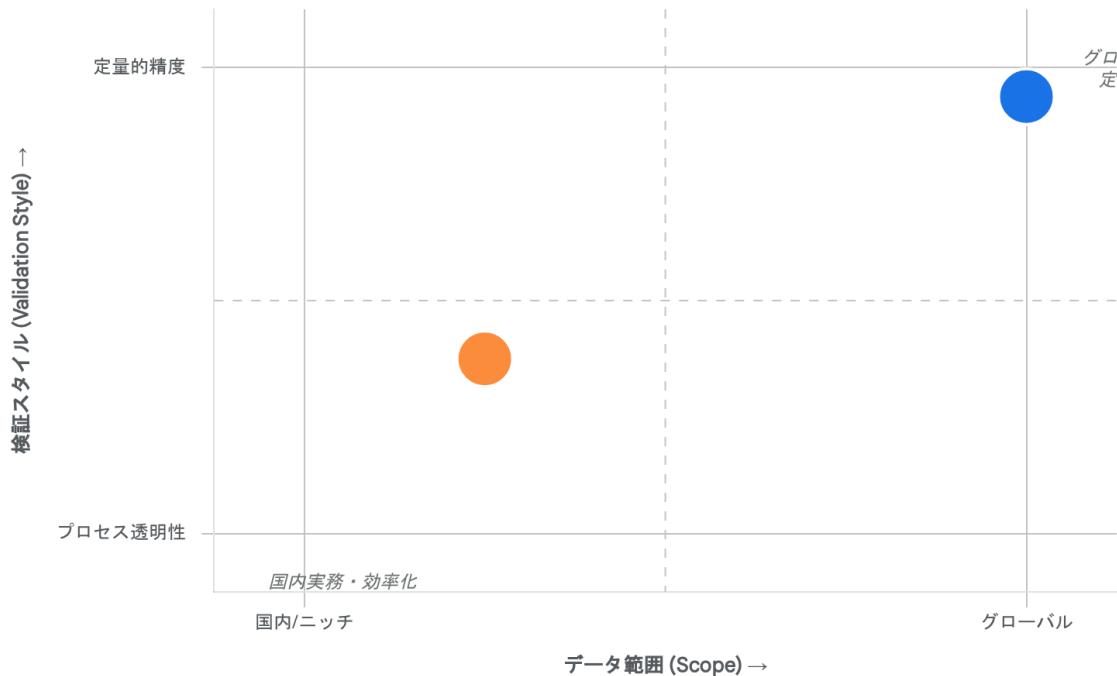
4.2. データカバレッジとインテリジェンスの深さ (Data & Intelligence)

- Patsnap: 「グローバル・イノベーション・インテリジェンス」
Patsnapの真骨頂はデータの広さと深さにある。特許だけでなく、学術論文、臨床試験データ、化学物質情報、さらにはスタートアップの資金調達情報やニュースまでを統合している⁸。これにより、「この特許技術はどの大学のどの論文に基づいているか」「この物質はどの臨床試験で使われているか」といった、知財情報の枠を超えたR&Dインテリジェンスを提供できる。化学・バイオ分野の専門性は世界トップクラスである。
- Tokkyo.Ai: 「日本企業の現場力強化」
Tokkyo.Aiは、日本市場に根ざしたデータ活用に強みを持つ。特に「プライベート特許検索」として、企業の内部データ(技術メモ、未公開発明、日報など)と特許データをセキュアに統合・分析できるオンプレミス(またはプライベートクラウド)的な運用に特徴がある¹⁶。グローバルデータもカバーしているが、Patsnapのような科学文献や市場データを含めた全方位的なプラットフォームというよりは、「特許実務」の効率化に特化したツールとしての色彩が強い。

4.3. ユースケースとターゲットの明確化 (Target Segments)

戦略的ポジショニング比較 : Patsnap vs Tokkyo.Ai

- Patsnap: グローバル・定量重視
- Tokkyo.Ai: 国内実務・透明性重視



Patsnapは「グローバル・包括的R&D・定量的精度」を志向し、Tokkyo.Aiは「日本実務・プロセス透明性・効率化」を志向している。ユーザーの重視する軸によって最適なツールは異なる。

Data sources: [Tokkyo.Ai](#), [Patsnap Benchmark](#), [Patsnap Eureka](#), [LegalTech KK](#)

Patsnapが最適なシナリオ

- グローバル企業のR&D部門: 世界中の特許、論文、技術ニュースを横断的に調査し、新規事業の種(ホワイトスペース)を探す場合。
- 無効資料調査・FTO調査: 「漏れ」が許されず、PatentBenchで証明された高いリコール率(36% vs 汎用AIの0-25%)が必要とされる、係争リスクの高い場面⁴。
- 化学・バイオ・材料メーカー: 構造式検索やシーケンス検索、物性データ検索が必須の研究開発。

Tokkyo.Aiが最適なシナリオ

- 日本企業の知財部・発明者: 日本語での微妙なニュアンスを重視し、AIの思考プロセスを確認しながら発明をブラッシュアップしたい場合。
- セキュリティ重視の閉域網利用: 社外に出せない極めて機密性の高い技術情報(ノウハウ)を扱うため、プライベート環境での検索・分析が必須な場合(製造業や防衛関連など)¹⁶。

- **コストパフォーマンス重視:** Patsnapは高機能だが高価格帯(エンタープライズ向け)である一方、Tokkyo.Aiは月額2万円からのプランや無料版もあり、中小企業や個人の弁理士でも導入しやすい²⁵。

4.4. コストとアクセシビリティ

- **Patsnap:** 具体的な価格は公開されていないが、Enterprise向けの高価格帯ソリューションであることは明白である。導入には営業担当者との商談が必要となる¹⁰。
- **Tokkyo.Ai:** 「プライベート特許検索」は1ID月額2万円からと明示されており、Webサイトからクレジットカード決済等で即座に利用開始できるプランもあるなど、導入のハードル(民主化)を下げている²⁵。

5. 結論と将来展望: 2026年以降の知財AIの行方

5.1. 総括: 二つの「正解」

PatsnapとTokkyo.Aiは、同じ「AI特許検索」という市場にありながら、異なる山の頂を目指している。

- **Patsnap (Eureka):** 「最強の検索代行者(Agent as a Executor)」。高い精度と網羅性を持ち、人間が数日かかる調査を数分で終わらせる。結果の品質を数値で保証し、グローバルなR&D競争に勝つための武器である。予算が潤沢で、グローバル展開する大企業や、徹底的な調査が必要な場面に最適である。
- **Tokkyo.Ai (Deep Agent):** 「最高の思考パートナー(Agent as a Copilot)」。AIのプロセスを透明化し、人間が気づきを得ながら調査を進めることを支援する。日本の実務に即した使いやすさとコストパフォーマンスを持ち、日常的な発明発掘や、AIの挙動を管理したい現場に最適である。

5.2. ユーザーへの提言

Tokkyo.Aiのベンチマークを探していたユーザーに対しては、以下の事実を認識することが重要である。

1. Tokkyo.AiにはPatentBenchと同等の公開数値レポートは存在しない。そのため、Patsnapと同じ土俵(数値スペック)で比較しようとすると、Tokkyo.Aiの真価を見誤る可能性がある。
2. その代わり、Tokkyo.Aiの価値は**「プロセスが見えることによる安心感」と「日本固有の業務フローへの適合」**にある。
3. 比較検討を行う際は、Patsnapの「81%」という数字と、Tokkyo.Aiの「透明性」を天秤にかけ、自社の課題が「調査漏れの恐怖(精度重視)」なのか「AIブラックボックスへの不信感(透明性重視)」なのかを見極めるべきである。

5.3. 将来展望

2026年以降、両社のアプローチは収束していく可能性がある。Patsnapも「説明可能なAI(XAI)」の機能を強化し、プロセスの透明性を高めていくだろう。逆にTokkyo.Aiも、蓄積されたデータを元に独

自のベンチマークを公表し、精度の証明に乗り出すかもしれない。

しかし、現時点においては、「グローバルの霸者Patsnap」と「日本市場の変革者Tokkyo.Ai」という対比は鮮明である。知財実務家は、自社の戦略と文化に合ったパートナーを選ぶことが、AI時代の競争力を左右する鍵となるだろう。

引用文献

1. The Year Global Innovation Rewired Itself with Domain Specific AI, 1月 12, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/fr/resources/blog/2025-the-year-global-innovation-rewired-itself-with-domain-specific-ai/>
2. 日経クロステック掲載 Patsnap社共同創業者インタビュー, 1月 12, 2026にアクセス、
<https://idea-triz.com/column/patsnap-eureka-nikkei-interview>
3. Patsnapは、2026年1月12日、特許実務特化AIベンチマーク「PatentBench」を発表しました。そして、このベンチマークで、Patsnap Eureka新規性調査エージェント、ChatG.docx
4. PatentBench - AI-driven Novelty Search Benchmark - Patsnap, 1月 12, 2026にアクセス、<https://www.patsnap.com/benchmark>
5. Tokkyo.Ai, 1月 12, 2026にアクセス、<https://www.tokkyo.ai/>
6. Patsnap launches first AI patent novelty search benchmarking tool, 1月 12, 2026にアクセス、
<https://asiaiplaw.com/section/news-analysis/patsnap-launches-first-ai-patent-novelty-search-benchmarking-tool>
7. Introducing PatentBench: Setting the Standard for Patent AI - Patsnap, 1月 12, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/resources/blog/introducing-patentbench-a-new-standard-for-ai-built-for-patent-tasks/>
8. Patsnap Eureka - AI Agents for IP & R&D Innovation Platform, 1月 12, 2026にアクセス、<https://www.patsnap.com/products/eureka/>
9. Patsnap Eureka R&D - IDEAS | パトコア - Powered by ipros, 1月 12, 2026にアクセス、
<https://pr.mono.ipros.com/en/patcore/product/detail/2001540754/>
10. Patsnap Pricing Plans - Standard & Premium IP and R&D Solutions, 1月 12, 2026にアクセス、<https://www.patsnap.com/pricing>
11. 日本初！リーガルテック社、特許特化ディープリサーチ実装！調査 ..., 1月 12, 2026にアクセス、
<https://www.legaltech.co.jp/notice/251218-2/>
12. TokkyoAiにDeep Research機能搭載, 1月 12, 2026にアクセス、
<https://yorozuipsc.com/blog/tokkyoaideep-research>
13. Blog Posts - よろず知財戦略コンサルティング, 1月 12, 2026にアクセス、
<https://yorozuipsc.com/blog/previous/2>
14. 国内初・プロセスを可視化する特許AIエージェントシステムの全貌, 1月 12, 2026にアクセス、
https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/ai_agents_transforming_intellectual_property.pdf
15. AI検索 – Tokkyo.Ai プライベートAI特許, 1月 12, 2026にアクセス、
<https://www.tokkyo.ai/pvt/function/>

16. AI特許検索の精度を大幅に向上！ユーザーによるAIへの「重み付け」等, 1月 12, 2026
にアクセス、<https://www.tokkyo.ai/pvt/notice/ultra/>
17. 知的財産インテリジェンスの新たなフロンティア: Perplexity ..., 1月 12, 2026にアクセス、<https://yoroziupsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/f77639eddf0c05308c9a.pdf>
18. 【特許AIエージェント最新事例】AIで倉庫ロボットの経路最適化 ..., 1月 12, 2026にアクセス、<https://www.legaltech.co.jp/notice/251205/>
19. 事例 – Tokkyo.Ai プライベートAI特許, 1月 12, 2026にアクセス、<https://www.tokkyo.ai/pvt/case/>
20. 【特許AI最新事例】鉄道車両メーカーにおけるAI活用事例を公開 ..., 1月 12, 2026にアクセス、<https://www.tokkyo.ai/pvt/notice/railway/>
21. TokkyoAi(特許AIエージェントシステム)徹底調査, 1月 12, 2026にアクセス、<https://yoroziupsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/6165e9c82c81991d8848.pdf>
22. 【特許AIエージェント最新事例】人と一緒に動くロボット - PR TIMES, 1月 12, 2026にアクセス、<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000389.000042056.html>
23. Human vs. Generative AI Battle 2 - Question setter - YouTube, 1月 12, 2026にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=dRke4Zxj33E>
24. 特許調査を10秒で！AI特許検索で研究者の特許検索を強力に ..., 1月 12, 2026にアクセス、<https://www.tokkyo.ai/pvt/notice/r-and-d/>
25. 価格 – Tokkyo.Ai プライベートAI特許, 1月 12, 2026にアクセス、<https://www.tokkyo.ai/pvt/price/>
26. Patsnap Eureka Reviews - Read Customer Reviews of Eureka ..., 1月 12, 2026にアクセス、<https://patsnap-eureka.tenereteam.com/>